



第六回 津沢商工会女性部 「優しさを包む」

小矢部市の姉妹都市・北海道沼田町では夜高あんどんが、した。津沢で灯されたあんどんは、はるか遠い北海道七万人程の観光客が訪れる規模のお祭りです。

実は、北海道沼田町と津沢商工会女性部が、手作りで作成し販売している「きんちゃく袋」。この二つには、深い関わりがあります。



きんちゃく袋は、夜高祭りで半纏や着物姿の時に貴重品を入れる袋として人気があります。このきんちゃく袋を作るきっかけは、今から約三十年程前の昭和五十二年までさかのぼります。

津沢出身の開拓者・沼田喜三郎翁が北海道に渡り開拓した沼田町の開基八十年を喜縁として、当時の小矢部市長と津沢の有志が、沼田町に「夜

高あんどん祭り」を伝承しました。津沢で灯されたあんどんは、はるか遠い北海道沼田町民の心にも赤々と火を灯し続けることになりました。

ついに、沼田町の夜高あんどんは、「北海道の三大あんどん」と呼ばれるまでに成長。そんな折、沼田町の夜高あんどんに津沢から参加し、踊りも披露することになりました。そこで、着物で踊るときに貴重品を携帯するものとして、手作りのきんちゃく袋を作製。要らなくなった袴の生地を利用しました。これが人気になり、販売することになったのです。



サイドにファスナーも付いています。

「せっかくなら何か新しい物を作りたい」「ご迷惑をかけるように」「良い物なら、みんなに伝えたい、広めたい」「手間をかけても、手作りで」「ずっと、引き継いで行こう」

夜高あんどん祭り同様、団結力と心意気、おもてなしの心がないと作れない商品であり、お祭りで培われた風土が生んだ商品の様な気がします。今でも津沢から沼田町に行く「本家」と呼ばれ、大変すばらしいもてなしをして頂けるそうです。

津沢夜高あんどんの由来

今をさかのぼること三五〇年前、承応二年（一六五三年）、越中・砺波の里での出来事でした。福野村の鎮守の氏神として、伊勢神宮より御分霊を勧請した遷宮の行事、御一行は、加賀と越中の国境である倶利伽羅峠にさしかかったところで日暮れを迎えてしまい、どうにも先へ進めぬようになってしまったのです。

この知らせを飛脚で知った村民達は、手に手に燈火用のあんどんを持って峠へとせせ参じ、村を挙げて奉迎したとか。これを起源として祭りが生まれ、地元で代々受け継がれてきたということなのです。



津沢夜高あんどん

毎年六月第一金・土曜日



津沢商工会

小矢部市津沢345
TEL 61-2356 FAX 61-2360



ストラップ



拍子木

きんちゃく袋の他にも拍子木やストラップもあります。

キャンペーン応募用紙

切り取ってお使い下さい。

- ・住所
- ・氏名
- ・電話番号
- ・メールアドレス



プ・レ・ゼ・ン・ト

「Oyabe Local Shop」では、津沢商工会女性部様からご提供頂いたきんちゃく袋(大)を3名様にプレゼントします。

キャンペーンが切
8月31日
(月)

PC・携帯からのご応募

http://www.startaro.com/s_hop/



FAXからのご応募

左記の応募用紙をご記入の上、0766-68-1789

ご応募お待ちしております!



あなたのお店、ご紹介します。

詳しくはこちら
<http://www.startaro.com/>